

ビワ生育情報

千葉県
平成31年3月号

平成31年2月の気象

平成31年2月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は第3半旬を除く5半旬で平年を上回った。月平均気温は7.8℃で、平年より1.5℃、前年より1.8℃高かった。

氷点下を記録した日は第1及び第3半旬でみられた。月合計は3日で、平年より6日、前年より4日少なかった。最低極温はすべての半旬で平年より高かった。

降水量は第2及び第6半旬を除く4半旬で平年より少なかった。月合計は89mmで、平年の92%、前年の424%であった。

日照時間は第1半旬を除く5半旬で平年を下回った。月合計は102時間で、平年の67%、前年の63%であった。

表1 平成31年2月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃) ^{※1}		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	8.3	5.2	4.5	2	2.0	1	-1.4	-1.6	-0.4
2	6.7	6.4	5.1	0	1.7	3	1.1	-1.4	-2.4
3	4.4	6.6	7.5	1	1.8	1	0.1	-1.5	-1.2
4	9.5	6.2	5.9	0	1.5	2	-0.4	-0.9	-0.4
5	9.6	6.8	5.7	0	1.2	0	1.0	-0.5	0.1
6	8.3	7.1	8.2	0	0.9	0	2.9	0.2	1.8
平均/計/最低値	7.8	6.3	6.0	3	9.0	7	-1.4	-3.0 ^{※2}	-2.4

※1：各半旬又は2月中に記録した最低気温

※2：2月中に記録した最低極温の30年間平均値

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	7	13	8	31	29	16
2	29	13	4	20	28	40
3	5	10	3	7	27	40
4	8	28	0	24	26	35
5	8	20	7	17	26	17
6	33	14	0	3	15	14
合計	89	97	21	102	152	161

幼果の寒害、果房及び樹の発育(4月の作業は次ページ)

3月1日時点のビワ幼果の生存率は表2に示した。樹冠外側の生存率は3品種共にすべて100%で、平年及び前年より高かった。樹冠内側の生存率も3品種共にすべて100%で、平年及び前年より高かった。

ビワ幼果の寒害は-3℃に2時間以上遭遇した場合に発生しやすいことが知られているが、暖地園芸研究所では、2月28日までに日最低気温が-3℃以下を記録した日はなかった。そのため、被害に遭いにくかったと考えられる。

果房内の幼果数は平年よりやや多い。寒害が少なく、開花後の気温が高く推移したため、果実の肥大は平年より著しく早く進んでいる。果実の肥大が進むと擦れ傷、虫害などを被りやすくなるので、摘果・袋かけ作業は早く進める。萌芽の展葉も平年より早く進んでいる。本年の果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市他県南地域で中発年と同様の傾向を示すため、今後の発生予察情報を参考にする。また、カメムシの発生が例年多い園では、4月以降、ビワ園への飛来に注意を要し、千葉県農作物病虫害雑草防除指針に従って防除を行う。

表2 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品 種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	100	65	41	100	91	88	100	77	64
大 房	100	82	85	100	95	91	100	88	88
田 中	100	82	34	100	95	89	100	88	62

調査日：平成31年3月1日

平 年：平成10年～平成30年の21年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

4月の作業

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んな時期になり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋かけが重要な作業になる。

摘果・袋かけ

本年は寒害が少ないが、平坦地のように寒害を受けやすい園では、幼果の生死の判別がしやすくなった頃から摘果を始める。果形が細長いもの、果実肥大が均一でないもの、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の発生が多い園では、樹冠の外側の幼果は避け、被害が比較的少ない樹冠の内側の幼果を多く残すようにし、収量低下を抑える。一方、本年は果実の発育が平年より早く進んでおり、摘果・袋かけ作業の適期は短いと予想されるため、作業可能な園から順次取りかかる。

がんしゅ病の予防

千葉県農作物病虫害雑草防除指針に従って、幼果期までに銅剤を予防散布する。その際、幹や枝にも薬液が十分にかかるようにする。

除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草を済ませる。草生栽培園では、有機物を補給する意味で草を刈り取って樹冠の回りに敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>